



あっという間に1学期が終わろうとしています。
 観測史上初めてという6月中の梅雨明け、真夏の到来となりました。徐々に夏の暑さに慣れていくところですが、体の準備ができる前に連日の30℃越えということになりましたので暑さ対策しっかりやっていきましょう。
 私幼時報7月号にこんな記事がありましたので紹介します。心理学者・臨床心理士「植木理恵」さんのコラムです。

ひとは、大人になるにつれて失っていくものがあるという事。「原初的好奇心」というもので、理由なく、とにかく湧き出てきて仕方がない興味のこと。幼稚園くらいの年齢の子どもたちは、大人から見るとこれに関しては偉大な先生のように。例えば、お母さんのスマホやエブロンをかじったり舐めたりしては、いつまでも手放そうとしない。あきれほど何回も同じ絵を描いては、「先生見て！」とすがりにくる。全身泥んこになりながら、何だか必死の形相で土を掘っては埋めている。こういう力はまさに「理由なく」湧き出てくる興味のなせるわざ、「原初的好奇心」。子どもたちは、「これは無駄な情報」「それはいけない行動」といった、大人のような分け隔てをしません。目に入る全てのことを心に吸い込もうとする。大人から見ると「もう、なんでそんなことをするのか？」と分からないことだらけ。危ないことも多いし、正直ストレスもたまってくる。無意識のうちに大人は、こういう子どもの原初的好奇心を「つぶす」ことに必死の毎日を送っている。その結果、子どもたちが7歳になる頃には、見事に大人がその「戦い」に勝利してしまう。つまり、「別に興味ない」「それって意味あるの？」が口癖のあの無気力な若者へと次第に変身し始めてしまう。……後略

あまり嬉しい勝利ではないなと思いながら読みました。そして、子どもたちが「先生来て来て！」「先生あのね…」と話しかけてくる姿を思い出して読みました。「待っててね」「後でね」は禁句です。今この幼児期の子どもたちは「原初的好奇心」のかたまりであって、その好奇心を満たしていくことが、次の「知的好奇心」に繋がっていくもの。長い夏休みに入ります。親との時間が増えます。子どもの好奇心を満たすために、一緒に共感し、感動し、一緒に行動し、一緒に楽しんでいってあげてください。無気力な子どもにしないために……頑張りましょう！！

夕涼み会 片付けのお手伝い

7/28(土)に夕涼み会があります。子どもたちが楽しみにしている夏まつりで、大きなやぐらに、園庭いっぱいの提灯は見ごたえがあります。
 終了後、職員と一緒に後片付けをして下さる方を募っています。やぐらの解体、提灯の片付け等約1時間です。夜の仕事を申し訳ございませんが、力を貸して下さい方をお願いします。
 13日(金)までに事務所又は担任までご連絡下さい。よろしくお祈りします！！

プールあそび



父母保育参観 6/17



七夕 7/4



防犯訓練 6/15



科学あそび



お誕生日会6月 6/22

